

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4071600979		
法人名	有限会社 吉兆		
事業所名	グループホーム ふきのとう		
所在地 (電話番号)	〒830-0062 久留米市荒木町白口2343-1 (電話) 0942-51-3660		
評価機関名	財団法人 福岡県メディカルセンター		
所在地	福岡市博多区博多駅南2丁目9番30号		
訪問調査日	平成21年7月30日	評価確定日	平成21年9月9日

【情報提供票より】(H21年7月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成13年4月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	21 人	常勤 14人, 非常勤 7人, 常勤換算 6.1人	

(2) 建物概要

建物形態	併設 / <u>単独</u>		新築 / 改築
建物構造	鉄骨 造り		
	2 階建ての	1 階 ~	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	22,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有 (円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	<u>有</u> (100,000円) 無	有りの場合 償却の有無	有 <u>無</u>	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,300 円		

(4) 利用者の概要 (7月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	0 名	女性	18 名
要介護1	0 名	要介護2	4 名		
要介護3	2 名	要介護4	8 名		
要介護5	4 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84.8 歳	最低	79 歳	最高	99 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	松枝医院、松岡病院、河田泌尿器科、川村皮膚科、小野眼科、毛利歯科、日高整形外科病院、はるた医院
---------	---

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

田園に囲まれたのどかな景色で、のんびり、ほのぼのとした雰囲気のホームである。施設長を始め地域に長い間貢献してきた経緯があり、管理者と共に地域を重視したホームの運営に努力している。理念に掲げてあるように地域と共に人が人として生きる喜びを心に感じ共に暮らせる時間と場所を目指し、「のんびらーと過ごす」を目標に実践されている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の改善課題は“ホーム理念に地域との関わりを記載されることを期待したい”であったが、地域密着型サービスとしての理念に改善されている。ホームは非常に地域を重視し地域の中に溶け込んでおり、入居者がその人らしく地域の中で暮らし続けられるように取り組みがなされている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>職員全員に自己評価を配布し、全員で評価を行っている。毎日のミーティングや毎月のカンファレンス等を通じて、昨年の課題の改善及び今年のサービスの向上に取り組み自己研鑽できるように各自が努力している。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>県、市会議員、民生委員、町内老人会、地域包括支援センター、家族、入居者、市役所長寿介護課職員等出席のもと2ヶ月毎に開催している。地域との連帯関係づくりの提案、行事参加等、地域や家族からの要望、ホームの活動状況などの討議を行い、活発に意見が出され、サービスの向上に活かしている。会議で顔見知りになった事から区長からの町の相談にも応じており、地域の活性化にもつながっている。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9)</p> <p>入居者一人ひとりの生活状況や健康状態は、ケアマネが随時家族に報告し、月1回必ず支払い時やその他の面会時に家族と面談を行い連絡をしている。ホームの便りの郵送、電話などでも報告を行っており、家族からの意見は所長を始め全職員が家族と積極的に関わり思いや意見を聞き、アンケート結果などをカンファレンス時の協議に活かし、苦情や不安への対応に努めている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会に入会し、地域の祭り、敬老会、校区社協主催のふれあい食事会など、地域の行事への参加を積極的に行っている。公民館の掃除や自治会活動についてもできる限り参加し、入居者の方と一緒に積極的に交流している。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「地域と共に人が人として生きる喜びを心に感じ共に暮らせる時間と場所づくり」を独自の理念とし、地域との関わりを重視しながら日々サービスの向上に努めている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を誰からの目にも留まる各所に掲示し、常々カンファレンス等でも理念を一読してもらい、内容の理解に努めている。また、地域の行事に積極的に参加するようにし、実際に体験することで理念の実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に入会して隣組の行事や公民館の清掃に入居者と職員も参加し、地元の人たちとの交流に努めている。隣近所の方たちとの気軽な挨拶・声かけを多く実践している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員に自己評価を配布し、全員で評価を行い、考え方や書き方など指導している。昨年の改善課題にも取り組み、サービスの向上につながるよう、各自が努めている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎に県、市議会議員、民生委員、町内老人会、地域包括支援センター、家族、入居者、市役所長寿介護課職員などの出席のもと開催され、活発な意見交換をしサービスの向上に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	困ったことや分からないことは、直接市町村担当者に話して対応してもらう機会を持つなど、連携が行われている。		
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるように支援している	成年後見制度を利用している方が一名おり、実際支援するにあたってパンフレットや資料などでスタッフ全員で勉強している。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	入居者一人ひとりの生活状況や健康状態は随時家族に報告し、必ず月1回の支払時やその他の面会時に家族と面談を行い、職員の異動の連絡説明及び近況報告をし意見交換を行うよう努力している。定期的に金銭出納帳を明示し、ホーム便りの郵送なども行っている。		
9	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関にアンケートポストを設置し、家族からの意見が反映されるように活用している。所長をはじめ全職員が家族と積極的に関わり、意見、不満、苦情などをケアノートに記載しカンファレンスや運営推進会議などの協議に活かしている。		
10	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	入居者と職員の馴染みの関係をできるだけ保ちダメージを防ぐため、ユニット間の異動は極力少なくし、ローテーションの中で核となるスタッフが常時いるように配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
11	19	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	「子育て応援宣言登録事業所」として積極的に登録し、更に定年退職年齢を60歳から65歳に引きあげるなど配慮している。職員研修の希望があれば優先して参加できるように配慮している。職員募集に関しては、年齢制限はなく、男女不問、ただし有資格者である。いきいきと勤務し社会参加や自己実現の権利も十分に配慮されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
12	20	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	行政機関発行の人権同和のパンフレットを教材として、人権教育、同和教育、人権啓発に努力し、外部研修に参加しており、カンファレンス・フロアーホーム内研修や勉強会を実施している。		
13	21	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修会への積極的な参加があり、毎月のカンファレンスで伝達研修や報告会を行っている。働きながらトレーニングができるよう、書籍類、DVD、資格取得のための教材(ケアマネ・介護福祉士などのDVD)等の貸し出しを実施している。		
14	22	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全国グループホーム協議会、福岡県グループホーム協議会、久留米市事業者協議会等に入会し、種々の研修会や他ホーム主催の祭り、イベントの参加など、機会ある毎に相互の交流を行い、活動を通じてサービスの質の向上に努力している。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人や家族が安心されるよう、サービスをいきなり開始するのではなく、見学してもらったり実際に日中ホームで他の入居者の方たちと過ごして頂いたりするなど、馴染める環境作りに努力している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者から手打ちうどんなどを教えてもらい一緒に作って昼食として頂いたり、煮物や畑仕事など、日常的に自発的に関わり、自然と学び支えあう関係を築いている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1.一人ひとりの把握					
17	35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の関わりの中で本人からの様々なサイン(言葉、表情、動作)より思いを把握し、日頃のコミュニケーションを密にとり、本人の意向や思いをくみ取れるよう努力している。困難な方には生活歴などを元に検討を重ねるように努めている。		
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日常の関わりの中で、入居者の思いの把握に努め、家族の面会時には意向を尋ね、担当スタッフや計画作成担当で原案を作成し協議して意見を反映させた個々の利用者本位のケアプラン作成に努めている。		
19	39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間に応じて必ず見直しを行っている。状態などに変化が起きた時点で随時見直し、全スタッフと話し合い、本人家族の意見を反映させ、現状に即した新たな介護計画を作成している。		
3.多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携をしている病院の医師に毎月往診してもらっている。訪問歯科や送迎による眼科受診、皮膚科往診、訪問理美容の利用により、入居者や家族の負担を軽減できるように柔軟な支援を行っている。		
4.本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームとして納得を得られた複数のかかりつけ医があり、24時間いつでも対応可能な支援体制をとっている。また入居者の以前からのかかりつけ医の希望については、家族や職員が通院の支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	なり得る可能性について、家族やかかりつけ医と相談しながら家族の希望を聞き連絡を密にとり、全職員で方針の共有化を図り希望に沿った支援体制づくりに努力している。		
<p>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>					
23	52	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報書類等は鍵のかかるキャビネットに保管されている。毎朝のミーティングでは、入居者一人ひとりのプライバシーを守るため頭文字のアルファベットで呼び、利用者が聞いても分からないようにするなど、個人のプライバシーや誇りを尊重し、トイレ誘導などさりげなく自然に対応している。また、他者と比較することなく言葉かけや対応をしている。		
24	54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	普段の会話の中からどのように過ごしたいか、希望は何かを引き出す努力をしている。夜遅くまでテレビを見てもらったり、朝起きれない方には朝食の時間をずらすなど一人ひとりのペースに合わせて支援が行われている。		
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>					
25	56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の希望を取り入れ栄養士に尋ねて献立を立てている。個々に合わせた手伝い、皮むきや味付け、片付けなどを一緒にしたり、共同でできる場面づくりに努め、さり気ない介助を心懸けて支援が行われているが、一部の職員は入居者と同じ食事を食べていない。		日常生活を入居者と共有し、楽しみや喜びを心で感じ共に暮らす理念から、職員の方たちも入居者の方と一緒に食卓を囲んで同じものを食べることが大切である。食事が更に楽しいものになるような支援を期待したい。
26	59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	勤務形態上決められた時間はあるが、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるよう支援している。温泉気分を味わってもらうなどその日のそれぞれの希望に応じて柔軟に対応するように支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生活歴や力量に合わせて、菜園づくりや家事手伝い、カラオケやケアピクス民謡を行うなど、歌ったり踊ったりと気晴らしができるよう楽しみごとの支援をしている。		
28	63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	一人ひとりの希望に添い、近隣への買い物やドライブに出かけたり、散歩をするなど日常的に外出の支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、全階開放し施錠を行っていない。ホームの見守りや、日常生活からそれぞれの入居者の外出傾向を把握し、鍵をかけない工夫をしている。安全のために玄関チャイムを設置するなど、鍵をかけないケアに取り組んでいる。		
30	73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	日頃から近隣の方にも支援してもらえるよう声かけを行うと共に、商店や警察、消防などに認知症の状況、症状などの説明を行い、地域住民の方々への協力を得られるよう働きかけている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量の摂取チェックをすることにより栄養バランスや水分量の把握に努めている。一人ひとりの嚥下状態、体調に合わせてトロミ寒天ゼリーなどを利用し食形態(大きさ、量、硬さ)も個別に対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には、生花や入居者・職員の手作りの作品などが飾っており、季節感を感じる。また、入居者や家族からの希望を取り入れ思い出の品や絵、書道などが飾ってある。騒音を避け、日光などはカーテンやブラインド利用して調節し、すぐに横になれるようソファを設置するなど、居心地よく過ごせる工夫がなされている。		
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室は本人の使い慣れた生活用品(タンス、テーブル、家具、テレビなど)を持ち込まれるよう勧めている。馴染みの暮らしが継続できるように畳かフローリングかの選択ができる。また家族の写真を貼ったり本人の作品を飾ったりして居心地よく過ごせる工夫がされている。		